

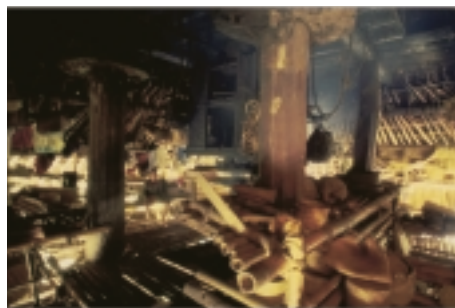


草屋根の秘密

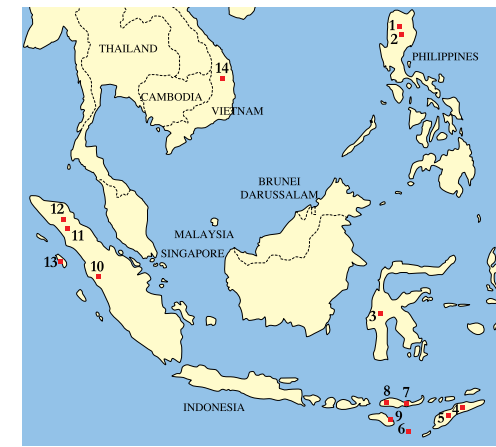
——東南アジア・オセアニアの住まい

イフガオ Ifugaoはフィリピン、ルソン島北部の山岳地帯に居住する民族。視界のおよぶかぎりの山あいを棚田につくりかえ、その人工自然のただなかで身を寄せ合ってくらしている。その住まいは四本の柱にのった日本の高倉そのもの。

◎写真と文 佐藤浩司 *Koji Sato*



インドネシア・スンバ島 Sumbaの集落。巨大な尖り屋根をもつスンバ島でも、屋根をささえる4本の柱には高倉の名残の鼠返しがある。ただし、屋根裏に収納されているのは米ではなく氏族を象徴する祖先伝来の神器で、この家の主人公は屋根裏にやどる祖霊のほう。住人たちはその床下に間借りしている格好だ。



1. ポントック (ルソン島)
2. イフガオ (ルソン島)
3. サダン・トラジャ (スラウェシ島)
4. ブナツ (ティモール島)
5. アトニ (ティモール島)
6. サヴ (サヴ島)
7. リオ (フローレス島)
8. マンガライ (フローレス島)
9. スンバ (スンバ島)
10. ミナンカバウ (スマトラ島)
11. トバ・バタック (スマトラ島)
12. カロ・バタック (スマトラ島)
13. ニアス (ニアス島)
14. バナ (ベトナム)



上：4本柱にのるイフガオの家屋。
 中／下：イフガオと踵を接してポントック Bontokの地がある。おなじ棚田を築きながら高床住居をもたない東南アジアでも異色の民族。ところが、彼らはいったん建設した高倉構造を壁でかくして、わざわざその床下でくらすのである。



インドネシア・ティモール島アトニ Atoniにある一本柱の儀礼家屋。中心にたつ聖柱には祖先の遺品がとりつけられている。アトニには、首長の権威の象徴として蜂の巣状の長大な屋根の高倉がある。現在の家屋はこの高倉構造をそのまま小さくしたもので、儀礼家屋にのこる1本柱構造はふるい家屋形式の遺風かもしれない。



インドネシア・フローレス島リオ Lioの家屋。家屋のなかにはさまざまな禁忌がはりめぐらされている。屋根の棟には祖霊がやどると信じられ、屋根裏をまともに見あげることさえしてはならないのだ。



フローレス島でも西部に住むマンガライ Manggaraiの家屋はめずらしい円錐形の高床住居。ひとつの建物に10数世帯が生活する。屋根のなかは幾層にもわたるトーモロコシの保管庫になっている。



インドネシア・スマトラ島カロ・バタック Karo Batakの集落。日本の竪穴住居をおもわせる巨大な高床住居には8世帯が共同で生活する。



インドネシア・サヴ島 Savuの家屋。船首は男、船尾は女の空間で入口も別。

母系社会で有名なインドネシア、スマトラ島ミンカバウの家屋。独特な屋根の形態は水牛の角の象徴とも。



集会所をかねた米倉と家屋が向き合っならぶトバ・バタックの集落。船のようにはりだした屋根の中はがらんど。



インドネシア・スラウェシ島サダン・トラジャ Sadan Torajaの家屋。

〈船〉はこの地域の文化を理解するキー概念のひとつ。サダン・トラジャでは船は祖先が乗ってきた乗り物で、死者の霊魂はふたたび船に乗せられて祖先の国にもどると考えられている。ティモール島のブナッやサヴ島では、家屋は船首と船尾をもつ船にたとえられる。



インドネシア・ティモール島ブナッ Bunaqの家屋。外壁をおおう乳房と迷路の彫刻は豊穡と永遠のシンボル。



